

中学生のキャリア発達の関連要因の検討 —自尊心、進路決定スキル、批判的思考力の関連—*

荒木 史代^{*1}

The Factors Related to the Career Development in Middle School Students: Relations among Self-Esteem, Career Skills and Critical Thinking Abilities

Fumiyo ARAKI

^{*1} Organization for Fundamental Education

This study examined the factors related to the career development through questionnaires for 7th to 9th grade students (N=447) in a middle school. The results demonstrated that 7th grade students significantly indicated higher levels of self-esteem and the logical thinking factor of critical thinking abilities than other grades, and the self-esteem was positively correlated with career skills in all grades. On the other hand, only some factors of critical thinking abilities were positively correlated with self-esteem in 8th and 9th grades. From the results, this study revealed that it is necessary to design and implement the career education program based on career developmental tasks and the factors related to career development in every grade.

Key Words : キャリア発達, 中学生, 自尊心, 進路決定スキル, 批判的思考

1. 緒 言

キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている(文部科学省, 2011). また、中央教育審議会(2011)は、キャリア教育で育成すべき力を、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である基礎的・汎用的能力とし、具体的に「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力を設定している。

キャリアが子ども・若者の発達の段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、学校教育においては、幼児期の教育から高等教育に至るまでキャリア教育を体系的に進めることが重要である(中央教育審議会, 2011). さらに、キャリア教育は、子どもたちがそれぞれの発達の段階に応じ、自分自身と働くこととを適切に関連付け、それぞれの発達段階における発達課題を解決できるような取組を展開するところに特質がある(文部科学省, 2011). 特に、中学校段階は、キャリアプロセスにとって、基盤形成の時期である小学校段階から現実的選択・試行と社会的移行準備の時期である高校段階への橋渡しをする非常に重要な時期である(文部科学省初等中等教育児童生徒課, 2004). 中学校段階は、独立の欲求や自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想を持つ時期である一方で、高校入試をはじめとする現実的な進路の選択を迫られ、自分自身の進路を自己の意思と責任で決定するという人生初めての経験をする極めて重要な時期でもある(文部科学省, 2011). そのため、中学校段階では、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせ、進路の選択・決定へと導くことが重要である(文部科学省, 2011).

中学校段階でのキャリア教育では、進路意識を高める学級活動の取組みとしてソーシャルスキルトレーニング

* 原稿受付 2015年2月27日

^{*1} 基盤教育機構

E-mail: f-araki@fukui-ut.ac.jp

を利用した活動(朽木, 2013)や教科教育においてキャリア教育の視点を組み込む授業 (山田, 2009)など様々な実践が行われている。特に、職場体験に関しては、平成 25 年度職場体験・インターンシップ実施調査(国立政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, 2014)によると、98.6%の公立中学校が実施している。

このような中学校でのキャリア教育実践前後の生徒の心理的側面の変化について検証を行った研究も少しずつ増加傾向にある。山田(2007)は、中学校 2 年生対象に行った職場体験の前後に質問紙調査を実施し、職場体験が生徒の進路関連自己効力感の向上に結びつくことを明らかにしている。また、対人スキル能力の高い生徒は、職場体験満足度が高くなり、進路関連自己効力感が大きく向上する可能性も示唆している(山田, 2008)。さらに、職場体験が生徒の進路成熟度および自立の高校進学動機における自己決定的な側面を向上させることを明らかにしている(山田, 2009)。つまり、公立中学校において実施されている職場体験が、生徒の自己効力感を向上させ、高校進学への動機や自己決定力を高めることが明らかにされている。

一方で、文部科学省(2011)は、各教科、道徳、総合的な学習の時間および特別活動や日常における教育活動の中にキャリア教育を体系的に位置づけることにより、能力や態度の効果的な育成を図ることが必要であるとしている。また、中学校段階のキャリア発達課題の特質をふまえた目標の設定に十分配慮することを指摘し、中学校段階のキャリア発達課題を具体的に「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心等に基づく勤労感・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」としている(Table1)。

そのため、職場体験などキャリア教育実践の効果測定研究だけではなく、中学生のキャリア発達課題の目標を教科学習や教育活動の中に組み込むために、「進路計画の立案と暫定的選択」に結びつく中学生の進路決定スキルと関連する個人要因を検証している研究もなされてきている。中学生の進路決定スキルが高い生徒は、自己効力感も高く(五十嵐ら, 2012)、進路決定に対する自己効力感と自尊感情の間には高い相関があること(長谷川, 1999)が明らかにされている。自己効力感や自尊感情は、キャリア発達課題の「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」に関連する個人要因であると考えられる。

また、中学校段階のキャリア発達課題の一つである「生き方や進路に関する現実的探索」は批判的思考に関連すると考えられる。批判的思考は、学業・職業など幅広い場面で働く汎用的スキルでもあり、情報をうのみにせず立ち止まって考える思考である(楠見, 2013)。批判的思考において大切なことは、第 1 に、相手の発言に耳を傾け、証拠や論理、感情を的確に解釈すること、第 2 に、自分の考えに誤りや偏りがないかを振り返ること(楠見, 2013)である。批判的思考は、中学生段階でのキャリア発達課題である「生き方や進路に関する現実的探索」に必要なスキルであると考えられるが、キャリア発達と批判的思考を関連づけた研究は見られない。

そこで、本研究では、中学生対象に質問紙調査を実施し、中学生のキャリア発達課題の「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」に関連すると考えられる自尊心、「進路計画の立案と暫定的選択」に関連すると考えられる進路決定スキル、「生き方や進路に関する現実的探索」に関連すると考えられる批判的思考力の関連を検討することを目的とする。さらに、本研究の結果から、キャリア発達課題の向上を目的とした実践を、中学校の教育活動の中に組み込む際の示唆について考察することとする。

Table1 中学校段階でのキャリア発達課題

キャリア発達課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 		
各学年におけるキャリア発達課題の例		
1年生	2年生	3年生
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや個性がわかる ・自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする ・集団の一員としての役割を理解し、果たそうとする ・将来に対するおおまか夢やあこがれを抱く 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する ・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえる ・将来への夢を達成する上で、現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める ・社会の一員として義務と責任を理解する ・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう

中学校キャリア教育の手引き(文部科学省, 2011)をもとに作成

2. 方 法

目的：中学生対象に，中学生のキャリア発達課題に関係すると考えられる自尊心，進路決定スキル，批判的思考力の関連を検討することを目的とする。

対象者：公立中学生 447 名(中学 1 年生 138 名，中学 2 年生 146 名，中学 3 年生 163 名)。

対象者が在籍する中学校では，中学 2 年生で職場体験を実施する。本調査の実施時期は，中学 2 年生が職場体験を行う前であった。

実施時期：2014 年 10 月

手続き：以下の項目から構成される質問紙調査を実施した。

(1) 学校生活スキル尺度・進路決定スキル(飯田・石隈, 2002)12 項目

学校生活スキル尺度 57 項目のうち，「進路決定スキル」因子に含まれる 12 項目を用いた。「とてもよくあてはまる(4 点)」から「まったくあてはまらない(1 点)」の 4 段階評定で回答を得た。

(2) 子ども用自尊心尺度(Pope ら, 1988 ; 高山ら, 1992)10 項目

翻訳版の「全般」領域 10 項目を用いた。「いつもそう思う (3 点)」から「ほとんどそう思わない (1 点)」の 3 段階評定で回答を得た。

(3) 中学生用批判的思考力尺度(前田ら, 2010)15 項目

中学生用批判的思考力尺度(前田ら, 2010)33 項目のうち，前田ら(2010)が尺度作成時に参考とした大学生を対象として作成された批判的思考力尺度(平山・楠見, 2004)の短縮版(平山・楠見, 2011)に相当する 15 項目を用いた。「とてもよくあてはまる (5 点)」から「まったくあてはまらない(1 点)」の 5 段階評定で回答を得た。

3. 結 果

学年別にキャリア発達課題 (Table 1) が設定されていることから，各尺度を学年別に分析した。

3.1 学年別の特徴

(1) 学校生活スキル尺度・進路決定スキル(飯田・石隈, 2002)

学校生活スキル尺度・進路決定スキル 12 項目を合計し，平均得点を算出した。各学年別の結果を Table 2 に示す。

学年を独立変数とする 1 要因分散分析を実施した結果，有意な結果は得られず，学年間の差は得られなかった。

(2) 子ども用自尊心尺度(Pope ら, 1988 ; 高山ら, 1992)

子ども用自尊心尺度 10 項目を合計し，平均得点を算出した。各学年別の結果を Table 2 に示す。

学年を独立変数とする 1 要因分散分析を実施した結果，有意な主効果が得られた($F(2, 443)=7.62, p<.01, \eta^2=.03$)。多重比較の結果，1 年生の自尊心得点が，2 年生，3 年生の得点と比較し，有意に高かった($ps<.01$, Bonferroni)。

(3) 中学生用批判的思考力尺度(前田ら, 2010)15 項目

中学生用批判的思考力尺度 15 項目を先行研究(平山・楠見, 2004 ; 前田ら, 2010)と同様に，「論理的思考(5 項目)」「探求心(2 項目)」「客観性(5 項目)」「証拠の重視(3 項目)」の因子別に合計し，平均得点を算出した。各学年別の結果を Table 2 に示す。
各因子の平均得点を従属変数とし，学年を独立変数とする 1 要因分散分析を実施した結果，

尺度(因子)	1年		2年		3年		F値	p	効果量 η^2
	M	SD	M	SD	M	SD			
学校生活スキル尺度									
進路決定スキル	3.10	(.50)	3.03	(.44)	3.04	(.47)	0.84	0.43	0.00
自尊心	1.96	(.39)	1.82	(.38)	1.80	(.38)	7.62	0.00	0.03
批判的思考態度尺度									
論理的思考	3.22	(.67)	3.09	(.67)	2.95	(.72)	5.76	0.00	0.03
探求心	4.20	(.81)	4.08	(.83)	4.12	(.78)	0.77	0.47	0.00
客観性	3.60	(.59)	3.47	(.56)	3.52	(.50)	1.77	0.17	0.01
証拠の重視	3.76	(.73)	3.67	(.84)	3.54	(.87)	2.80	0.06	0.01

「論理的思考」のみで有意な主効果が得られた($F(2, 443)=5.76, p<.01, \eta^2=.03$). 多重比較の結果, 1年生の得点が, 3年生の得点と比較し, 有意に高かった($p<.01$, Bonferroni).

3.2 自尊心, 進路決定スキル, 批判的思考力の相関

各尺度・因子間の相関を検討するために, 学年別に相関分析を実施した.

1年生の結果は, Table 3 に示すとおり, すべての尺度・因子間で正の相関がみられた. これらの結果から, 自尊心, 進路決定スキル, 批判的思考力尺度はすべて関連しており, 自尊心得点や進路決定スキル得点が高いほど, 批判的思考力尺度得点が高いといえる.

2年生の結果は, Table 4 に示すとおり, 自尊心, 進路決定スキルとの間, 進路決定スキルと批判的思考力尺度の各因子間で正の相関がみられた. 自尊心と批判的思考力スキルの各因子間では, 「論理的思考」「証拠の重視」のみで正の相関がみられた. これらの結果から, 自尊心と進路決定スキル, 進路決定スキルと批判的思考力尺度は関連しており, 自尊心が高いほど進路決定スキルも高く, 進路決定スキルが高いほど批判的思考力も高いといえる. 一方で, 自尊心と批判的思考力尺度においては一部の因子のみの関連にとどまるという結果が得られた.

3年生の結果は, Table 5 に示すとおり, 自尊心, 進路決定スキルとの間, 進路決定スキルと批判的思考力尺度の各因子間で正の相関がみられた. 自尊心と批判的思考力スキルの各因子間では, 「論理的思考」「探求心」「客観性」の3つの因子で正の相関がみられた. これらの結果から, 自尊心と進路決定スキル, 進路決定スキルと批判的思考力尺度は関連しており, 自尊心が高いほど進路決定スキルも高く, 進路決定スキルが高いほど批判的思考力も高いといえる. 一方で, 自尊心と批判的思考力尺度においては「証拠の重視」因子では, 有意な相関がみられなかった.

3.3 進路決定スキル, 自尊心, 批判的思考力尺度の関連

自尊心, 批判的思考力尺度の各因子と進路決定スキルの関連を検討するために, 学年別に, 従属変数を進路決定スキル, 独立変数を自尊心, 批判的思考力尺度の各因子とするステップワイズ法による重回帰分析を実施した. 結果は, Table 6 に示すとおり, 1年生では自尊心, 批判的思考力尺度の各因子のすべてで正の標準回帰係数が有意であった. また, 2年生では, 自尊心と批判的思考力尺度の探求心, 証拠の重視, 客観性の各因子で, 3年生では, 批判的思考力尺度のすべての因子で正の標準回帰係数が有意であった.

これらの結果から, 進路決定スキルの向上に, 1年生では, 自尊心と批判的思考力のすべての向上が, 2年生では, 自尊心と批判的

Table 3 各尺度・因子間の相関(1年生)

	進路決定 スキル	批判的思考力尺度			
		論理的思考	探求心	客観性	証拠の重視
自尊心	.392**	.306**	.320**	.174*	.238**
進路決定スキル	-	.418**	.526**	.486**	.471**
論理的思考		-	.195*	.268**	.339**
探求心			-	.336**	.249**
客観性				-	.306**

**p<.01,*p<.05

Table 4 各尺度・因子間の相関(2年生)

	進路決定 スキル	批判的思考力尺度			
		論理的思考	探求心	客観性	証拠の重視
自尊心	.262**	.183*	.107	.111	.212*
進路決定スキル	-	.434**	.537**	.447**	.411**
論理的思考		-	.289**	.291**	.327**
探求心			-	.469**	.243**
客観性				-	.418**

**p<.01,*p<.05

Table 5 各尺度・因子間の相関(3年生)

	進路決定 スキル	批判的思考力尺度			
		論理的思考	探求心	客観性	証拠の重視
自尊心	.365**	.373**	.295**	.254**	.147
進路決定スキル	-	.462**	.563**	.517**	.495**
論理的思考		-	.346**	.298**	.240**
探求心			-	.480**	.346**
客観性				-	.456**

**p<.01,*p<.05

Table 6 進路決定スキルに関連する
批判的思考態度・自尊心の重回帰分析結果

従属変数	進路決定スキル		
	1年生	2年生	3年生
独立変数			
自尊心	.14 *	.13 *	.12
批判的思考力			
探求心	.31 **	.41 **	.29 **
証拠の重視	.23 **	.22 **	.25 **
客観性	.24 **	.21 **	.21 **
論理的思考	.17 *	.13	.17 *
R ²	.52 **	.43 **	.52 **

**p<.01,*p<.05

思考力尺度の探求心、証拠の重視、客観性の各因子の向上が、3年生では、批判的思考力尺度の向上に関連するといえる。

4. 考 察

4.1 中学生のキャリア発達に関わる進路決定スキル、自尊心、批判的思考力の関連：各学年の特徴

本調査の結果明らかになった、中学生のキャリア発達に関わる進路決定スキル、自尊心、批判的思考力の関連の学年別の特徴は以下のとおりである。

1年生では他の学年と比較して、自尊心と批判的思考力尺度の「論理的思考」で有意に高いという結果が得られた。また1年生では、進路決定スキル、自尊心、批判的思考力のすべての尺度・因子間で正の相関がみられ、重回帰分析の結果からも、進路決定スキルの向上に、自尊心、批判的思考力が影響を与えていることが明らかになった。Table1「中学校段階でのキャリア発達課題」の1年生のキャリア発達課題の例に挙げられている「自分のよさや個性がわかる」「自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする」は自尊心に関連する課題であると考えられる。本調査結果からも、中学1年生では、自尊心向上を視野にいたれたキャリア教育実践の内容を検討する重要性が示唆されたといえる。

2年生では、進路決定スキルと自尊心の間には正の相関がみられたが、自尊心と批判的思考力尺度の「探求心」「客観性」の一部因子では正の相関がみられなかった。また、重回帰分析の結果からは、進路決定スキルと自尊心と関連はみられたが、批判的思考力尺度「論理的思考」では関連がみられなかった。

3年生では、進路決定スキルと自尊心の間には正の相関がみられたが、自尊心と批判的思考力尺度の「探求心」「証拠の重視」の一部因子では正の相関がみられなかった。また、重回帰分析の結果からは、進路決定スキルと批判的思考力尺度のすべての因子との関連はみられたが、自尊心との関連がみられなかった。

4.2 中学校でのキャリア発達課題の向上を目的とした教育実践に向けて

本研究の結果から、中学校でのキャリア発達課題の向上を目的とした教育実践に向けて、得られた示唆は(1)各学年の特徴やキャリア発達課題に応じたキャリア教育の教育目標の検討、(2)キャリア発達課題に応じた教育実践プログラムを日常の学習活動の中に組み込むこと、の2点である。

1つ目は、各学年の特徴やキャリア発達課題に応じたキャリア教育の教育目標を検討することである。本研究結果から、1年生では自尊心が他の学年よりも得点が高く、進路決定スキルにも関連していることが明らかになった。また、3年生では、重回帰分析の結果、進路決定スキルと自尊心の関連がなくなり、進路決定スキルと批判的思考力のみが関連していた。

また、Table1「中学校段階でのキャリア発達課題」では、1年生は「自分のよさや個性がわかる」等自尊心に関連する課題から、学年があがるにつれて、「自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する(2年生)」や「将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう(3年生)」など批判的思考力に関連すると考えられる課題に移行している。これらのことから、1年生では、自尊心向上を目的とした教育実践を検討し、学年が上がるにつれ批判的思考力に着目した教育実践を検討するなど、学年の特徴やキャリア発達課題に応じた教育実践内容を検討することの重要性が示唆されたといえる。

2つ目は、各学年のキャリア発達課題に応じた教育実践プログラムを日常の中学校の学習活動の中に組みこむことである。文部科学省(2011)は、各教科、道徳、総合的な学習の時間および特別活動や日常における教育活動の中にキャリア教育を位置づけることにより、能力や態度の効果的な育成を図ることが必要であるとしている。例えば、荒木ら(2010)では、小学生対象に社会的スキルの向上を目的としたプログラムを総合的な学習の時間や学校裁量の時間に実施した結果、小学生高学年児童の自尊心が有意に向上するという結果が得られている。また、笠井ら(2015)では、小学校での環境教育の実践の効果検証として、中学生対象に質問紙調査を実施した結果、統制群と比較して実践群の生徒の批判的思考態度得点が有意に高いという結果が得られている。

このように、キャリア教育を主目的とした学習内容でなくても、社会的スキル教育や環境教育の教育実践を通して、キャリア発達課題に関連する自尊心や批判的思考力が向上する可能性がある。これらのことから、本研究で明らかとなった、自尊心、批判的思考力など各学年のキャリア発達課題に関連する要因を学習目標とし

た教育実践を、各教科、総合的な学習の時間など日常における教育活動に組み込むことは、キャリア教育の実践において重要であるといえる。

4.3 今後の課題

今後の課題として、(1)キャリア発達課題に応じた具体的なキャリア教育実践プログラムの開発と、(2)他の発達段階でのキャリア発達課題に関連する要因の検討の2点が挙げられる。

1つ目の課題は、キャリア発達課題に応じた具体的なキャリア教育実践プログラムの開発である。

本研究では、中学生のキャリア発達に関連する要因の検討を行い、自尊心や批判的思考力が、進路決定スキルと関連があることなど、学年別の関連要因を明らかにした。これまでの教育実践の中で、社会的スキル教育や環境教育が、生徒のキャリア発達に関連すると考えられる自尊心や批判的思考力の向上に寄与することは明らかにしてきたが、それらは生徒のキャリア発達を目標とした取組みではない。

日常的教育活動の中にキャリア教育の視点を組み込むことの重要性も指摘されている(文部科学省, 2011)ように、各教科や総合的な学習の時間、特別活動の中で実施可能な、具体的なキャリア教育実践のプログラムの開発を行うことが今後の課題である。

2つ目の課題は、中学生だけではなく、高校生や大学生など他の発達段階でのキャリア発達課題に関連する要因の検討の必要性である。

学校教育において、幼児期の教育から高等教育に至るまでキャリア教育を体系的に進めることが重要であるとされている(中央教育審議会, 2011)。本研究では、中学生対象にキャリア発達に関連する要因の検討を行った。中学生のキャリア発達に関連する他の要因の検討も重要であると考えられるが、今後は、高校、大学と発達段階が上がる段階での、生徒、学生のキャリア発達に関連する要因の検討も必要であると考ええる。高校、大学では、キャリア教育の内容や成果が、生徒、学生の将来の就職により直結しやすい。特に大学教育においては、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能とされる汎用的技能の育成が求められている(中央教育審議会, 2008)。高校、大学段階でのキャリア発達課題に応じた汎用的技能を促進する教育実践プログラムの開発に向けて、高校生、大学生のキャリア発達に関連する要因を検討することが今後の課題である。

付 録

本研究は、「福井工業大学における人を対象とする研究倫理審査委員会」において承認を受けた「実践分析を取り入れた新しい環境教育プログラム評価手法の開発(承認番号 人-2014-1)」で収集したデータを分析し論文としてまとめたものである。

文 献

- 荒木史代・窪田由紀・小田真二・阿部悦子・白井祐浩・安達都耶子(2010). 学校全体を対象とした心理教育の導入・実践過程―ある小学校での「対人スキルアップ・プログラム」の実践の検討から―*心理臨床学研究*, **28**, 172-183.
- 中央教育審議会(2008). 「学士課程教育の構築に向けて」 Retrieved, February, 6, 2015, from http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf
- 中央教育審議会(2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」 Retrieved, February, 6, 2015, from http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf
- 長谷川龍彦(1999). 中学生の自尊感情と進路選択能力の関連 *進路指導研究*, **19**, 35-43.
- 平山るみ・楠見 孝(2004). 批判的思考力が結論導出プロセスに及ぼす影響：証拠評価と結論生成課題を用いての検討 *教育心理学研究*, **52**, 186-198.
- 平山るみ・楠見 孝(2011). 批判的思考の測定 pp110-138. 楠見 孝・子安増生・道田泰司編 *批判的思考力を育む―学視力と社会人基盤力の基盤形成* 東京 有斐閣
- 五十嵐哲也・平岩あゆみ・吉野成美(2012). 中学生における学校生活スキルの各領域と自己効力感との関連 *愛知教育大学保健環境センター紀要*, **11**, 11-16

- 飯田順子・石隈利紀(2002). 中学生の学校生活スキルに関する研究―学校生活スキル尺度(中学生版)の開発― *教育心理学研究*, **50**, 225-236.
- 笠井利浩・荒木史代・前嶋勇(2015). 小中学校におけるライフサイクル思考に基づく環境教育の実践と評価 第10回日本ライフサイクルアセスメント研究発表会抄録集, 34-35.
- 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2014). 平成25年度職場体験・インターンシップ実施状況等調査結果(概要) Retrieved, February, 6, 2015, from <http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/i-ship/h25i-ship.pdf>
- 朽木正美(2013). 進路意識を高める学級活動―SSTを利用して― *進路指導*, **85(2)**, 27-32.
- 楠見 孝(2013). 良き市民のための批判的思考 *心理学ワールド*, **61**, 5-8. 日本心理学会
- 前田健一・新見直子・加藤寿朗・梅津正美(2010). 中学生の批判的思考力と社会的事象に対する関心・意欲および社会的態度 *広島大学心理学研究*, **10**, 89-99.
- 文部科学省(2011). *中学校キャリア教育の手引き* 東京 教育出版株式会社
- 文部科学省初等中等教育児童生徒課(2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書―児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために― Retrieved, February, 6, 2015, from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/010.pdf
- Pope, A. W., Craiqhead, W. E., & McHale, S. M. (1988). *Self-esteem enhancement with children and adolescents*, Amsterdam: Elsevier. (高山 巖(監訳) (1992). *自尊心の発達と認知行動療法―子どもの自信・自立・自主性をたかめる* 東京 岩崎学術出版社.)
- 山田智之(2007). 5日間の職場体験学習が中学校の進路関係自己効力感に及ぼす影響 *キャリアデザイン研究*, **3**, 103-115.
- 山田智之(2008). 職場体験による中学生の進路関連自己効力感の変容と影響要因(希望レベル・対人スキル)との関係 *キャリアデザイン研究*, **4**, 49-62.
- 山田智之(2009). キャリア教育が中学生のキャリア発達に及ぼす心理学的影響と効果に関する研究 *進路指導*, **82**, 15-26.

(平成27年3月31日受理)